



女子医大
東京大
東医大

改ざん「医師個人が」

大学側、厚労省に強弁

東京女子医大病院の心臓手術ミス・隠ぺい事件で、執刀医の瀬尾和宏容疑者(46)が看護師長や技士を巻き込んで看護記録などを改ざんしたことが判明した後も、大学側は厚生労働省への報告で、瀬尾容疑者の行為のみを強調して「改ざんは当事者レベル」と強弁していたことが分かった。瀬尾容疑者は、組織的な隠ぺい

い体質があると大学側に再調査を求めたが、それも見送っていた。真相究明に及び腰な大学側の姿勢に改めて批判が集まりそうだった。

同大は、心臓手術後に亡くなった群馬県高崎市

は報告書で明香さんに脳障害が起きていたことを指摘したが、改ざんについては「瀬尾容疑者に」脳障害の事実を隠ぺいする意図がみえる」との表現にとどめた。

同大は、今年2月初め、毎日新聞の報道などで、瀬尾容疑者がICU(集中治療室)の看護師のトップである看護師長に看護記録を改ざんさせたことが明らかになった。

【医療問題取材班】

あっせん収賄容疑で逮捕された衆院議員、鈴木宗男容疑者(54)について

東京地裁は30日、7月10日まで10日間の拘留延長を認める決定を出した。

看護師長と技士書類送検

東京女子医大病院の心臓手術ミスで、警視庁捜査一課と平込署は30日、死亡した女児の看護記録を改ざんしたなどとして、同病院の看護師長の女性(54)と臨床工学技士の男性(31)を証拠隠滅容疑で東京地検に書類送検した。

調べでは、看護師長は女児が死亡した昨年3月

5日、瀬尾和宏容疑者(46)と同容疑で逮捕の指示で、人工心肺の誤操作による脳障害が起きなかったように見せかけられるため、看護記録に記された瞳孔の直径を一部書き直した疑い。技士は同8日、人工心肺が正常に作動したように見せかけた虚偽の作動記録を作った疑い。

長らは2月末、同病院の処分を検討する厚労省の社会保障審議会医療分科会に出席した際、看護師長らの関与の可能性には触れずに、瀬尾容疑者の行為を強調して「改ざんは当事者のレベルであり、組織的には犯罪行為は一切ない」と説明した。

また、瀬尾容疑者は2

月、改ざん工作を認めた

女子医大小児心臓手術事故
改竄医師個人

2002年7月1日 毎日新聞